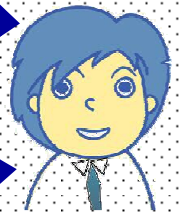




ねっとわーく



H24.09.04 No.38

■ 2年1組の実践から

竹田先生、お忙しい中、鬼のような催促にお応えいただき、ありがとうございました(^^)

第3回校内授業研究会 事後研だより

議題「2の1のマークを作ろう」

■ 2年1組の授業から学んだこと

石川先生、夏休み前の忙しい時期に、貴重な授業を提供いただき本当にありがとうございました。子どもたちの笑顔と石川先生の包み込むような笑顔がとてもすてきでした。

◎ 子どもたちが自分の考えを話し合える教室

合い言葉を表したマークについてどれが良いか話し合う授業でしたが、子どもたちはいつも通りに、石川先生のお話を真剣に聞いて考えていました。いつもやっているリズム遊び、友だちとの輪が大きくなって楽しくスタートする時間など、いつもやっていることが積み重なっていて大切だと思いました。

少人数で話し合う時には、グループの中の子どもたちが、話の出ないときに待っていてあげたり、ちょっとアドバイスをしてあげたりして、みんなの話をしっかり聞いて考えている姿がありました。「話す・聞く」のためには、一人一人が聞いてもらえるという安心感をもてる教室にしていきたいと思います。

◎ グループの話合いを全体に

グループの話合いの中で、子どもたち一人一人の思いが尊重されていて、自己決定もなされていました。子どもたちは、マークの良さをそれぞれのマークに見つけていて、友達のことを聞いた後も自分の選んだものが良いと考えている子もおり、グループの考えとしては一つにまとまらなかったグループもありました。しかし、グループでどんな意見が出たのか、「まとまらなかったらまとまらなかったお話をみんなに教えてね。」という先生の言葉がけで、自分たちの話合いの様子を自信をもって全体の場で語っていました。どうしても1つにまとめるのではなく、まとまらないこともあると丸ごと受け止めて、子どもの考えをみんなに広げていました。

◎ 子どもたちの声を引き出した後、どうやって一つに決めたらよいか。

自己決定の後、集団決定をしなければなりません。井上先生のご指導の中に、一つに決めると言って集団決定してからスタートしたのだから、やっぱり一つに決めないといけないというお話がありました。みんなの思いが一つになってこのマークに決まったんだという思いを大事にすればよい、毎日の生活の中で集団決定や自己決定のために時間を使うようにして、「一つに決める」ということを勉強するのだということでした。マークの場合は、よいところを言っていくとだんだん絞り込まれていき、一つの集団決定になっていくのだと思いますが、その他のマークも大切にされて、みんなのものになっていくのではないかなと思いました。

◎マークのその後 授業の後、子どもたちは、朱里さんの二つのにこにこ顔が手をつないで上にあげているマークを選び、台紙を燃えるハートの赤にして、ちゃんのマークとは言わず自分たちのマークと呼んだそうです。提案理由を具体的に丁寧に伝えたからこそ、一人一人がじぶんたちのマークと受け止めて考えているのだと思いました。